法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-15

中国における流通システムのダイナミズムに関する研究 : 「二重構造」向け流通イノベーションを中心に

王, 亦菲 / WANG, Yifei

(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
137
(発行年 / Year)
2023-03-24
(学位授与番号 / Degree Number)
32675甲第567号
(学位授与年月日 / Date of Granted)
2023-03-24
(学位名 / Degree Name)
博士(経営学)
(学位授与機関 / Degree Grantor)
法政大学 (Hosei University)
(URL)
https://doi.org/10.15002/00026659

博士学位論文
論文内容の要旨および審査結果の要旨

氏名	王　亦菲
学位の種類	博士（経営学）
学位記番号	第 821 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	本学学位規則第 5 条第 1 項(1)該当者(甲)
論文審査委員	主査　教授　李　瑞雪
	副査　教授　田路　則子
	副査　教授　近能　善範
	副査　教授　宮澤　信二郎

中国における流通システムのダイナミズムに関する研究
-「二重構造」向け流通イノベーションを中心に-

１．審査の経緯

王亦菲氏から 2022 年 9 月 30 日付で博士（経営学）学位請求論文が提出された。王氏は法政大学大学院経営学研究科博士後期課程に在籍しており、2020 年 7 月 17 日の経営学研究科教授会において、王氏が本大学院経営学研究科課程博士論文の提出要件であるステップ３に合格し通過した旨、判定評価された。ステップ３をクリアするための経営学研究科博士後期課程ワークショップにおける研究発表と質疑応答は 2020 年 7 月 4 日に実施された。同ワークショップは、法政大学学位規則第 19 条に定める「論文を中心とし、論文に関連ある学問領域について」の試験に該当するものであり、王氏は、それに合格した。

博士論文提出可否の判定において求められている査読付き学術雑誌への掲載については、

- 王亦菲（2022)「中国農村部における EC クラスター形成要因に関する研究：QCA アプローチ」『中国経済経営研究』第 5 巻第 2 号、pp.1-18.
- 王亦菲(2019)「B2B プラットフォーム型流通企業と中国流通革新：星利源社の事例研究」『イノベーション・マネジメント』第 16 号、pp.27-43.

の 2 篇の発表によってその要件を満たした。2 篇とも王氏の単著論文であり、博士論文の研究の主要部分を反映するものである。

王氏の学位請求論文提出を受けて、博士論文審査小委員会（主査・李瑞雪、副査・田路則子、近能善範、宮澤信二郎）を発足した。2022 年 11 月 9 日に法政大学ボワソナード・タワー705 教室および ZOOM 使用のハイフレックス方式で公開セミナーが開催され、王氏から論文内容が報告され、質疑応答を行った。その後、博士論文審査小委員会としては、同論文

の完成度を高めるために論文への修正・改善を求める条件を付与して受理する判断をした。2023 年 12 月 22 日付で王氏から博士論文審査公開セミナーにおける修正・改善事項への対応を行った学位請求論文の差替版が再提出され、審査の結果、小委員会としては以下の報告が妥当である、との結論に達した。

２．本論文の構成と内容

（1）本論文の目的と研究課題

本論文は、中国流通システムにおいて登場している B2B 型流通プラットフォーム、農村部 E コマース・クラスター、ニューリテールを流通イノベーションの視点から捉え、それぞれの生成メカニズムとインパクトの解明を狙う研究である。

本研究は既存の流通ダイナミズム理論と中国流通システムの現状との乖離に着目した。既存の流通ダイナミズム理論に従えば、伝統的な零細型小売店舗は競争力を失い淘汰されてしまい、農村部においてもいずれ大型組織小売企業が浸透していくことになるのである。しかし、現に中国で多くの零細型小売店舗はデジタル技術の活用や B2B 型流通プラットフォームからの支援によって機能とコンピタンスを強化している。農村部においては組織小売企業の浸透が進まない一方、EC 村と呼ばれる数多くの EC クラスターの形成を通して流通効率の改善が図られている。また、オンラインとオフラインを融合するニューリテールという業態が EC と実店舗の競争関係を協働関係に転換させている。これらのノベーションがもたらしている事象のいずれも、既存の流通ダイナミズム理論では十分に説明できない。

要するに、中国流通に存在している３つの二重構造、即ち、「巨大化した組織小売企業」対「伝統的な零細型小売店舗」の二重構造、「高度化する都市部流通」対「立ち遅れる農村部流通」の二重構造、「急拡大するネット通販(EC-B2C)」対「低迷する実店舗」の二重構造に対して、既存の流通ダイナミズム理論の想定する方向性と異なるソリューションが実践から生まれている。いずれの二重構造においても既存理論の想定する片方の衰退や一方的収斂にはならない可能性が、B2B 型流通プラットフォームと農村 EC クラスター、そしてニューリテールを含む流通イノベーションにもたらされている。これらのイノベーションの規定要因や価値創造、構成要素、流通システム全体へのインパクトなどを解明しなければ、中国流通システムのダイナミズムを把握することができないと著者は指摘している。

（2）論文構成

本論文の各章構成は以下の通りである。

第1章　問題意識と研究課題の設定
第2章　中国流通システムの変遷プロセスに関する既存研究の整理
第3章　流通システムのダイナミズムに関する既存理論のレビュー
第4章　都市部流通システムの再構築：B2B プラットフォーム

第5章　EC クラスターによる農村部流通の非効率性の克服
第6章　ニューリテール：流通システムの新展開
第7章　中国流通システムのダイナミズムに関する理論の再検討

上記、『イノベーション・マネジメント』誌と『中国経済研究』誌に掲載された 2 篇の論文はそれぞれ、第 4 章と第 5 章の主要内容となった研究である。なお、第 6 章の一部は『ロジスティクス・ビジネス』誌第 19 巻第 1 号に掲載されている。

（3）各章の概要

第 1 章では、本研究の問題意識と研究対象、研究課題を説明している。中国流通システムに存在する 3 つの二重構造の問題と 3 つの流通イノベーションを関連付けて、こうしたイノベーションが登場した背景と経緯、既存の流通ダイナミズム理論との乖離を説明することが第一の研究課題である。そのうえで、B2B プラットフォーム、農村部 EC クラスター、ニューリテールのそれぞれの形成メカニズムと構成要素を分析することを第二の研究課題として設定している。そして、各流通イノベーションに共通する特徴とインパクトを分析したうえで、中国流通システムの進化プロセスに関する新たな知見をまとめ、流通ダイナミズム理論の補完を目指すことが第三の研究課題であると述べられる。

第 2 章では、中国の流通システムは前世紀 80 年代以降、どのような変化を辿ってきたかを先行文献のレビューに基づいて整理した。先進国からの流通技術の導入や規制緩和によって、先進国と比べて圧縮したプロセスとなったものの、ほぼ類似した展開となった事実が組織小売企業の成長過程から確認できた一方、都市部の伝統的な零細小売業や農村部の流通環境を巡る変化は、先進国の経験と異なる性質を見せていることを指摘した。

第 3 章では、流通ダイナミズムに関わる主要理論をレビューすることによって、これらの理論における想定と今日の中国流通の実践が乖離することを浮き彫りにした。流通革命、小売業態発展、小売イノベーション、オムニチャネルなどを含む代表的な流通ダイナミズム理論が渉猟され、また、最終章での分析に備えるために、プラットフォームに関わる先行研究のレビューも行われた。

第 4 章では、先駆的な事例に対するケーススタディを通して、B2B プラットフォームのビジネスモデルと効果を分析した。選定された対象事例は深圳にある星利源社で、B2B プラットフォームの草分け的な存在である。同社のロジスティクス機能、マーチャンダイジング機能、情報機能などを含むリテールサポート機能の提供が、都市部の伝統的な零細小売業における競争力の強化と業績向上につながることを明らかにした。B2B プラットフォームの仕組みは零細小売業が生き残り、そして高度化していくための道を切り開いたことが本研究で示唆されている。

第 5 章は、農村部 EC クラスターについての研究である。浙江省と山東省の計 8 つの EC 村を対象とするフィールド調査から、関連産業の基盤、基本的インフラの整備、EC 知識ソ

ースの利用可能性、便利な物流サービスの利用可能性、政府の振興策などが EC 村の形成と発展の過程で重要な役割を果たしたことを発見した。これらの要素を条件変数として、質的比較分析手法(QCA)を用いてさらに分析を進めた結果、「充実した知識ソース」と「便利な物流サービス」が EC クラスター形成のコア条件、必要条件であるという結論が得られた。

第 6 章は、ニューリテールと称される新小売業態についての考察である。ニューリテールの代表格とされる盒馬鮮生社を対象に行ったケーススタディによって、オンラインとオフラインを融合する仕組みの主な構成要素を解明した。具体的には、顧客のショッピング行動のデジタル化、店舗とフロントディストリビューションセンター(FDC)の一体化、店舗バックオフィスと EC プラットフォームの一体化といった取り組みは、EC とリアル小売りの情報流と物流の統合につながり、オンラインユーザーとオフラインユーザーの相互誘導を促進したのである。

第 7 章では、各章での考察を踏まえながら今日の中国流通のダイナミズムについて３点の結論を導いた。

第一は、中国流通システムに固有する二重構造の問題に対するソリューションとして、B2B 流通プラットフォーム、農村部 EC クラスター、ニューリテールを含む流通イノベーションが有効でありうることを指摘した。

第二は、3 つの流通イノベーションに共通する点として、二重構造における弱い側が衰退や退場をするのではなく、先進的なデジタル技術やロジスティクス機能の追加により力付けられる、いわゆる「デジタル・エンパワーメント」されることを明らかにした。

第三は、伝統的な零細小売業、立ち遅れた農村部流通、低迷する実店舗に対するデジタル・エンパワーメントにおいて、各種流通プラットフォームが中心的な役割を果たしていることを指摘した。このことは、小売店舗のフォーマットや流通チャネルの変容に加えて、プラットフォームを中心とするエゴシステムを流通ダイナミズム理論の枠組みに取り入れる必要であることを示唆している。

３．本論文の審査結果

（1）評価すべき点

主査と副主査による一致した所見は以下のとおりである。

第一に、中国流通のダイナミズムに関する既存研究の盲点に着目して、既存理論の補完を目指す強い問題意識に基づく研究対象の設定は妥当かつ有益である。伝統的な零細小売業や農村部流通などをめぐる流通イノベーションの実態とインパクトに対する本研究の考察は、デジタル時代の中国流通研究にとって、新たなフロンティアを拓くための試みであり、その新規性と重要性が高く評価できる。

第二に、星利源社の B2B プラットフォーム、浙江省と山東省の EC 村、ニューリテールの盒馬社などの研究対象に対する地道なフィールド調査を実施し、それに基づいて詳細な

ケーススタディが見事に行われた。まさに日本の企業経営研究の良き伝統とも言える綿密な現地調査、豊かな発見記述、ケーススタディからの理論導出という手法を愚直に実践した研究である。また、農村部 EC クラスターを考察するために採用した事例研究と QCA を組み合わせる手法はユニークである。

第三に、詳細な先行研究のレビューが行われており、評価に値する。とりわけ本論文では流通ダイナミズム、中国流通システムの過去 40 年間の変容、プラットフォーム理論などの問題にかかわる先行研究を丹念に整理し、既存理論と流通の実践との乖離を露呈させる作業を試みた。

第四に、研究成果の積み上げによって博士論文を仕上げていった方法は納得できる。本論文のメイン部分である 4 章、5 章、6 章に該当する研究成果は順次、ジャーナル投稿掲載のプロセスを経て社会に還元するとともに外部からのチェックによって論文の質が担保されている。

第五に、数々の事例研究を踏まえて、現代の中国流通ダイナミズムを観察するための、プラットフォームによるデジタル・エンパワーメントという視点を提起した点は新規性がある。今後の中国流通ダイナミズム研究において、デジタル・エンパワーメントによって形成し強化されるエコシステムの在り方と動向を見ることが不可欠であるというメッセージを、本研究から読み取ることができる。

（2）残された課題

以上、現段階で高い評価が与えられる諸点に加えて、以下の具体的な研究課題が残されている。

第一に、B2B 流通プラットフォームとニューリテールについての研究はいずれも当該イノベーションの先駆的企業に対するシングル・ケーススタディに拠るものであり、理論の飽和に向けた「追試」作業が行われていない側面がある。今後、理論的サンプリング手法で追加の事例研究を実施し、また、ケース内分析に加えてケース間分析も行うことによって、本研究で導出された理論の検証と修正を進める必要があろう。

第二に、農村部 EC クラスターに関する研究においては、EC ビジネスの集積形成を規定する要因の解明に力点を置きすぎた結果、立ち遅れた農村部流通システムの改善という視点がぼやけてしまい、博論全体との一貫性の維持に疑念が残る。今後、EC クラスターの形成と発展がどのように農村部流通システムの効率改善につながるかという問題に焦点を当てるような後続研究を期待したい。

第三に、第 7 章では、3 つの流通イノベーションに共通する「プラットフォームによるデジタル・エンパワーメント」というコンセプトを提起したものの、それらのイノベーションの関係性を明瞭に分析したとは言えず、現代の中国流通ダイナミズムの再構築に向けた議論を詰め切れていない感が否めない。とは言いながら、中国流通システムのダイナミズムの再検討はとても大きなテーマであるだけに、博士論文だけで終わる研究課題ではないであ

ろう。望蜀の念として、本論文をベースに継続して取り組んでほしいのが言いたいことである。

（3）結論

以上、今後、探究し精査するべきいくつかの具体的な研究課題はあるものの、本論文の学問的な貢献を大きく損なうものではない。今後、王氏が、本論文に残された課題を新たな学術論文の形式でより明確に世に問い、流通システムに関わる理論研究と実証研究の進展に貢献し続けることを期待したい。

ここに、審査小委員会は、全員一致で本論文が、博士（経営学）の学位資格を十分に備えているとの結論に達した。